

【参考2】神戸市の人口重心

前回に引き続き東方向へ移動

人口の地域分布の状況を集約して示すものの一つに人口重心がある。

神戸市の人口の動きを人口重心の動きで見してみる。人口重心とは、人口の一人一人が同じ重さを持っているとして、地域内の人口を1点で支えて平衡を保つことのできる点をいう。

前回平成12年の人口重心は、長田区鹿松町2丁目にあった。平成17年の人口重心は、前回に比べ東方に143m移動している。これは、主に東灘区など東部市街地の人口増によるもので、いわゆる「都心回帰」が進んだことによると考えられる。

昭和35年から平成2年までの人口重心の動きを見ると、一貫して500m程度ずつ西方向へ移動してきた。これは、須磨区、垂水区、西区でのニュータウン開発による人口増加を反映したものである。

平成7年には、西方向に1,235mと従来との動きと比べ、大幅に移動した。これは震災の影響で、市街地から西区など周辺地域へ人口が移動したことによる。平成12年には再び市街地へ人口が移動し、人口重心は初めて東へ422m移動した。今回平成17年調査で、引き続き東方向へ移動している。

表43 神戸市の人口重心の動き

年次	東経			北緯			前回からの移動距離			人口重心の大体の位置
	度	分	秒	度	分	秒	東西移動	南北移動	直線距離	
昭和35年	135	10	23	34	41	7	中央区 楠町7丁目(大倉山公園)
40年	135	10	15	34	41	4	西 208 m	南 94 m	228 m	" 楠町7丁目(神戸大学医学部付属病院)
45年	135	9	55	34	41	0	西 510	南 115	523	兵庫区 荒田町4丁目
50年	135	9	27	34	40	60	西 704	南 10	704	" 菊水町8丁目
55年	135	9	9	34	40	59	西 472	南 18	472	" 滝山町(夢野台公園周辺)
60年	135	8	53	34	40	57	西 414	南 60	418	長田区 長田天神町4丁目
平成2年	135	8	30	34	40	59	西 566	北 35	567	" 東丸山町
7年	135	7	42	34	40	58	西 1235	南 1	1235	須磨区 妙法寺(獅子ヶ池南東)
12年	135	7	58	34	41	4	東 422	北 178	458	長田区 鹿松町2丁目
17年	135	8	4	34	41	7	東 143	北 84	165	長田区 鹿松町1丁目

(注) 計算に当たっては、各区の人口重心がそれぞれの現区役所にあると仮定した。

今回、現在の各区役所の世界測地系による経度緯度により、昭和35年まで遡って再計算したため、過去に公表した人口重心と異なる部分がある。

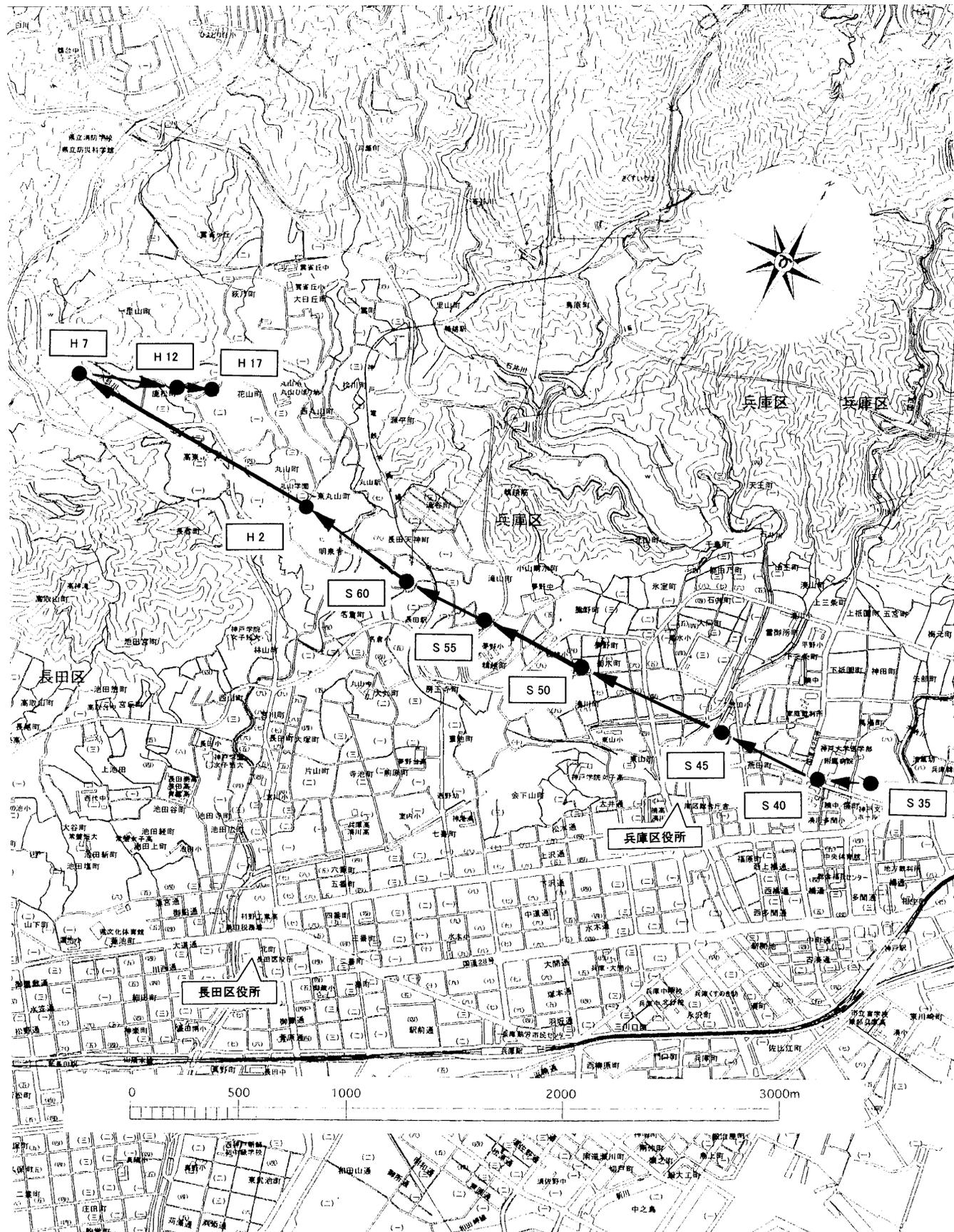
また、対象地域の緯度の差が比較的小さいため、緯度の異なりによる経度の広狭を補正していない。

【算式】
$$X = (W_i \cdot X_i) / W_i$$

$$Y = (W_i \cdot Y_i) / W_i$$
X, Y : 人口重心の経度, 緯度
X_i, Y_i : 第i区役所の経度, 緯度
W_i : 第i区の人口

(担当：鈴木，篠崎 内線：2327，2328)

図37 神戸市の人口重心の動き



この地形図は、平成14年度作成の神戸市地形図1:25,000を平成18年11月複製したものである。